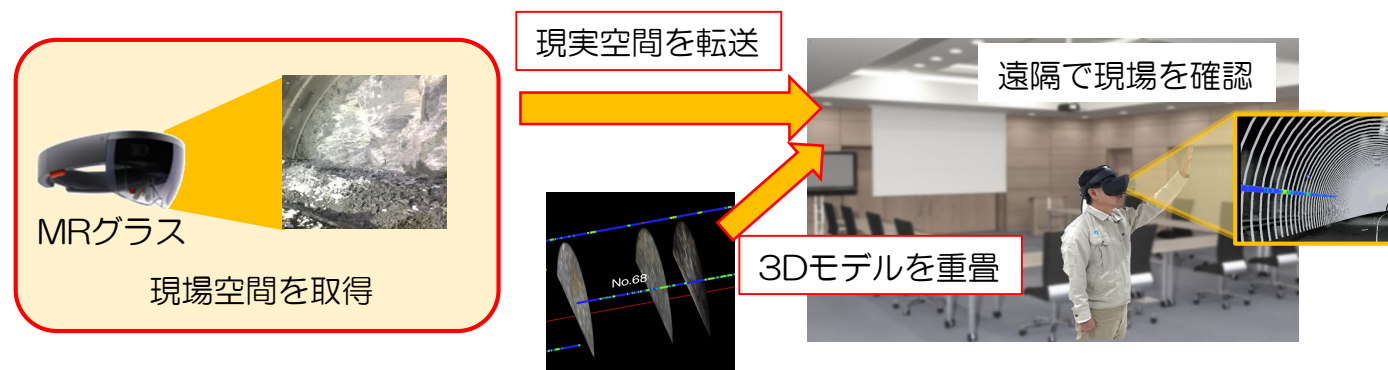


# 2019年度『国道106号 与部沢トンネル』 復興支援道路工事に革新的ICT技術を導入



- 日本の建設業は、社会の少子高齢化が進む中で、深刻な労働者不足になっています。
- そこで、国土交通省では、ICT（高度情報通信）技術を導入することによって生産性を向上し、働く人にとって魅力ある建設現場を目指す取り組み（i-Construction：アイ・コンストラクション）を進めています。
- 復興支援道路工事である国道106号与部沢トンネル工事では、国土交通省が募集した革新的技術の導入・活用プロジェクトに採択され、以下の革新的ICT技術を工事現場に導入し、生産性の向上を行っています。  
本公募での採択は、昨年度に引き続き2回目であり、より高度な技術の実証に向けてチャレンジをしています。

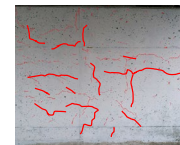
## ①MRによる遠隔確認（MR：Mixed Reality）



## ③自律飛行ドローン、クラック抽出AI



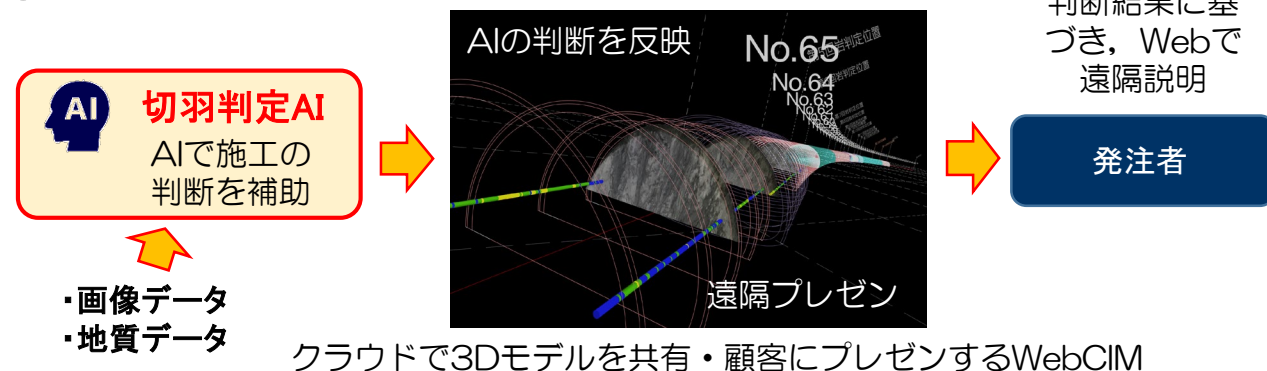
### クラック抽出AI



AIでクラック等の変状を抽出



## ②切羽画像岩種AI判定、WebCIM情報共有



五洋建設  
PENTA-OCEAN CONSTRUCTION

<http://www.penta-ocean.co.jp/>

■ 国土交通省 『建設現場の生産性を飛躍的に向上するための革新的技術の導入・活用に関するプロジェクト』 への参画

国土交通省は、建設現場の生産性を向上することを目的として2018年度より革新的技術の導入・活用に関する公募を実施しています。五洋建設は、この公募において2018年度・2019年度の二回にわたり、採択されました。

この公募では、従来の建設技術を大きく塗り替えることが期待されており、このため建設業だけで取り組むのではなく、様々な業種とのコンソーシアムを構成することが求められています。

※ コンソーシアムメンバー： 五洋建設株式会社(代表), 国立大学法人大阪大学, 日本システムウエア株式会社, 株式会社ネクストスケープ, 株式会社日立システムズ

■ どの工事で試行しているの？

『国道106号 宮古盛岡横断道路』は復興支援道路として位置づけられ、東日本大震災被災地と内陸との連携を促進しています。

この宮古盛岡横断道路の改築事業の一環として  
施工中の『与部沢トンネル』が試行工事のひとつ  
となっています。

ここで施工中です

よべさわ  
与部沢トンネル工事

平津戸駅



道の駅 やまびこ産直館

川内駅

トンネルを掘っている様子

①掘削(発破)	②ずり出し	③吹付・支保工
④ロックボルト	⑤インパート工	⑥防水工・覆工コンクリート

復興道路

復興道路・復興支援  
道路については、こ  
ちらをご覧ください。

↓

[http://www.thr.mlit  
.go.jp/road/fukkou/](http://www.thr.mlit.go.jp/road/fukkou/)

